



2020年は近年に類を見ない1年間となりました。新型コロナウイルスの流行は多くの人々に大きな苦しみと混乱をもたらしました。コロナ禍の影響を受けた皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

花王は、コロナ禍によって生じた対応すべき問題に精力的に取り組んでまいりました。まず初めにとった行動は、従業員の安全を守ることです。そしてその後すぐに、この新しい環境で暮らす人々を支援するため、消毒液などの花王が製造する必需品の生産能力を劇的に拡大しました。

コロナ禍への緊急対策がとられた後は、改めて「豊かな生活文化の実現」へ重きを置いた取り組みに立ち戻りました。ESG戦略「Kirei Lifestyle Plan」に沿って、また「私たちのプラスチック包装容器宣言」の考えを行動に移していきました。プラスチック使用量削減に向けては、「エアインフィルムボトル」と呼ばれる、花王の薄型フィルム技術を活用した革新的な新型容器の展開を開始しました。この容器は従来のプラスチックボトルの完全な代替品として利用可能でありながら、プラスチックの使用量を大幅に削減しています。この新技術は、2020年4月に新ブランド「MyKirei by KAO」から採用を開始しました。

また、リサイクルも重要視する課題です。リサイクルの追求の中で、ライオン株式会社のような国内の企業と協働して、使用済みつめかえパックの回収およびリサイクル活動を実施しています。さらに、東京都や和歌山市と連携して、循環型社会に向けた新たな構想の試験的な取り組みも開始しました。どのような企業であれ、1社のみで循環型社会を実現することは不可能です。パートナーシップこそが鍵を握るのです。

企業の透明性の向上にも力を入れ、「香りに関する方針」の公開および、国内ファブリック&ホームケアブランドの一部や「MyKirei by KAO」の商品群から香料成分名の開示を開始しました。

2021年は行動と変革の年となるでしょう。花王グループの新たな中期経営計画「K25」はESGをビジネスの中核に据えています。それにより、既存の事業に、成長と革新をもたらすだけでなく、花王の技術を活用して新たな成長機会を生み出していきます。K25の策定においても、今後の展開においても、花王はESG外部アドバイザリーボードの声を尊重し、気候関連財務情報開示タスクフォース(Task Force on Climate-related Financial Disclosures: TCFD)から要求されたシナリオ分析を反映させています。重要なインパクトをもたらす行動を通じて、花王は世界に「きれい」を届けたいと強く願っています。

ESG 委員会の役割

ESG 委員会はESG戦略に関する活動の方向性を議論・決定しています。委員長は社長執行役員、委員は専務執行役員、常務執行役員等で構成されています。ESG活動に関する方針や戦略の策定、ESGに関する課題、リスクと機会の把握、ESG活動状況の確認を行なっています。ESG外部アドバイザリーボードは社外有識者で構成され、ESG委員会の諮問に対する答申や提言を行ない、社外の視点を経営に反映させています。

ESG 委員会で2020年に議論されたテーマ

- 新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえたESG戦略の確認
- 新中期経営計画「K25」と連動したESG戦略の審議・承認
- Kirei Lifestyle Plan 中長期目標の見直し案の審議・承認
- 外部アドバイザリーボードの具申事項の確認
- Kirei Lifestyle Plan 各テーマの進捗に関するレビュー
- ESG実績評価のあり方

ESG 外部アドバイザリーボードからESG 委員会に提案されたテーマ

- 花王の取り組みの良い面、悪い面を含む完全な透明性の必要性
- 花王のESG目標達成における従業員の重要性
- 外部でのより高いレベルでのESGに関する対話の必要性

気候変動シナリオ分析

花王は2018年にTCFDがまとめた提言に賛同を表明しました。その翌年に実施した気候変動シナリオ分析により、化石由来原料への依存を低減し、大気中のCO₂を回収する新たな方法を見つける必要性を再認識しました。気候変動が進行する中でも、人々が適応し生きていく方法を模索することもきわめて重要です。

2020年には、花王がこれまでに蓄積してきたすべてのリサイクル技術を1箇所に集めて研究を加速するために、リサイクル科学研究センターを設立しました。また、現在私たちがさいなまれているウイルスや、将来影響を及ぼすかもしれないウイルスと闘うために、花王衛生科学研究センターを設立しました。

執行役員 ESG部門統括
デイブ・マンツ

